

生誕160年

秋季
企画展

南條文雄と近代仏教学

実習生展併催



大谷大学博物館
Otani University Museum

2009.9.7[月] — 9.26[土]

開館時間=10:00~17:00(入館は16:30まで)
〒603-8143 京都市北区小山上総町

休館日=日・月曜日
TEL 075-411-8483

観覧料=一般大学生:200円 小中高学生:100円 (本学同窓生・在学生は無料)
FAX 075-411-8146 http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

向かって左から南條文雄、マックス・ミュラー、笠原研寿

南條文雄と近代仏教学

南條文雄（一八四九～一九二五）は、日本における近代仏教学の礎となった先駆者であり、のちには大谷大学の第二代学長を務めました。近代仏教学は、明治以降、ヨーロッパにおける仏教の原典研究の方法にもつき、前近代の宗学的研究を批判・継承する新しい仏教研究であります。それまでの仏教は、漢訳の仏典を中心に研究されてきましたが、十八世紀末にヨーロッパ人によってサンスクリット（梵語）が発見され、漢訳仏典の原典の存在が明らかになりました。そこからは、サンスクリット原典による仏典研究や漢訳仏典との比較研究など、新しい学問の方法が展開していきました。

南條文雄は、はじめ東本願寺高倉斎で仏教を学んだのち、イギリスへ留学してオックスフォード大学のマックス・ミュラーに師事し、サンスクリット語学を学び、梵文漢訳の研究に尽力しました。多くの研究業績のなかでも、とりわけ留学中にオックスフォードで刊行した『大明三蔵聖教目錄訳補』は、古代インドにおいて膨大な仏教経典が存在したことを明らかにする点で学術的に高く評価され、その目録は、現在なお珍重されています。

このように日本における近代仏教学は、ヨーロッパやアジア諸地域への渡航留学を通して新しい学問研究の方法が摂取され、また仏教原典などが将来されることによって、飛躍的に発展していきました。本展覧会では、南條文雄のほか、チベット語・チベット仏教文献の研究に功績を残した小栗栖香頂・能海寛・寺本婉雅をとりあげ、その学問や人となりについて紹介します。

なお、大谷大学博物館学課程実習生による実習生展「賀茂六郷と上総町遺跡」を同時開催いたします。大谷大学が所在する「小山」（現小山総町）をふくむ賀茂六郷の歴史の変遷や賀茂社との関わりなど、この地域の歴史と文化について紹介いたします。

主な出陳品

南条笠原両師書簡	イギリス留学へ向かう途中に出された書簡
大明三蔵聖教目錄訳補	南條が学友である笠原研寿に贈呈したもの
南条文雄校訂自筆原稿（梵文入楞伽經）	南條自筆の原稿
デーヴァナーガリー文字活字字母	『梵文入楞伽經』出版のために製作された字母
能海寛書簡（南条文雄宛）	南條宛の書状。能海寛の絶筆
チベット旅行許可証	寺本婉雅がダライ・ラマ13世より与えられた旅行許可証
金子大栄・鈴木大拙・曾我量深合筆墨蹟	親鸞700回忌記念鼎談時の合筆墨蹟

実習展

賀茂六郷と上総町遺跡

- A班：近世京都の姿
- B班：賀茂社と賀茂六郷
- C班：〔上総町遺跡〕大谷大学出土の遺構と遺物
- D班：山城国愛宕郡



十万般若波羅蜜多經（大般若波羅蜜多經）
北京版チベット大蔵經のうち 清・康熙23年（1684）開版

特別展

祈りと造形

—韓国仏教美術の名品—

2009年10月13日（火）～11月28日（土）

韓国・東國大学校博物館との協定締結を記念し、同館所蔵の仏教美術コレクションと、日本国内に遺る韓国伝来の名品を紹介します。日ごろ見ることのできない韓国の美術品に触れる貴重な機会です。是非ご来館下



地下鉄鳥丸線「北大路」、市バス「北大路バスターミナル」6番出口すぐ